

2020年度 外国人留学生 小論文 出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

曾我謙悟『日本の地方政府』（中公新書、2019）からの出題である。本学に入学する前に、日本語能力を高めるだけでなく、経済学を学ぶ際に必要となる力もつけておいてほしいと考え、この文章を入学試験の問題として採用するに至った。設問にあたっては、これから本学の経済学部で学ぶのに必要とされる日本語能力、文章読解能力、文章表現能力、洞察力、分析力、論理的思考力を測ることに重点を置いた。

設問1では、経済学部で学ぼうとする受験者には読めることが期待される漢字を取り上げた。設問2では、経済学部で学ぼうとする受験者には知っておいてほしいカタカナ語を取り上げ、その意味を理解し、日本語で説明する力があるかを測った。設問3では、データを正しく読み取り、表現する力を測った。設問4では、文章とデータを理解した上で、再構成する力を測った。設問5では、文章を正確に理解できているか、社会で起こる事象に関心を持ち、分析する力があるかを測った。設問6では、論理的に文章が書けるか、経済学部で学ぶ際に必要となる洞察力、分析力が備わっているかを問うこととした。

【解答の傾向】

<設問1>

⑤の正答率は低かったが、全体的によくできていた。誤答のほとんどが長音や濁音に関するものであった。語彙の学習の際には留意してほしい。

<設問2>

b、cの正答率が低かった。特に、cでは、母国語に書き換えているだけで日本語にできていない解答や「サービス」という語を直接使い、説明になっていない解答が見られた。カタカナ語にも常日頃から注意を払っておいてほしい。

<設問3>

アとウは、比較的よくできていた。イは、データは読み取れていると見受けられるが、「減りつついている」、「減らしつついている」、「減少しつついている」、「下がりつついている」といった「つついている」に正しくつながる形にできていない解答がほとんどであった。

<設問4>

解答すべき内容は、図の説明の直後にあり、比較的よくできていたが、理由を聞かれているのに、理由を説明できていない解答も少なからず見られた。日本語の表現では、「ため」、「から」といった語を用いての解答が期待されたが、そのような表現になっていないものもあった。また、決められた字数をオーバーしている解答も見られた。

<設問5>

解答の際に重要となるのは、「スピルオーバー」という言葉の意味の理解と行政サービスについての関心や知識である。文章の読解により、「スピルオーバー」の意味は把握できるはずだが、正しく理解できていない解答が多かった。また、具体例を挙げていない解答も多く見られた。具体例として期待されたのは、周辺市町村の住民でも利用できる公共施設やインフラ設備である。全体的に正答率は低かった。

<設問6>

「昼夜間人口のズレが引き起こす問題」について述べることを求めたが、「昼夜間人口」を誤って捉えている解答が少なからず見られた。「夜間人口」を「夜の街の人口」と誤って捉え、夜の飲食店や夜間営業について述べている解答などがあつた。文中には「夜間人口」に関する直接的な説明はないが、「昼間人口」に関して書かれた箇所や文章全体から意味を理解することができると期待した。「昼夜間人口のズレ」は、居住地と通勤・通学先が異なるという話なのだが、大都市と地方の人口移動の話だと誤って捉えている解答があつた。途中（1 ページ目の中段）で話が変わっていることが読み取れていないと思われる。いずれも読解力に起因するものだと考えられる。

自国の事情に関しては、多少本題とずれている解答もあつたが、比較的良好に書けていた。日本の大学で学ぶにあたり、自国を見つめ直し、自国への理解も深めてほしい。

対策案についての記述も求めたが、単に人口集中の問題として捉える解答が多く、行政サービスの財源をどうするかといった観点からの記述は少なかった。また、対策が書けていない受験者もいた。

その他、本文からの引用が大部分を占める答案、400 字を超えている答案、200 字程度しか書かれていない答案も見られた。

日本語に関して言えば、漢字で書くことが期待される語彙での平仮名表記が多く見られた。特に、非漢字圏出身者には、経済学部で学ぶことを意識して、入学までに書ける漢字を増やしておいてほしい。

社会に関する知識、洞察力、分析力が求められる問題であり、日本語の学習を単なる言語の学習と捉えてやっていただけではなかなか解けない問題である。日々の生活の中で、様々なことに興味を持ち、自ら考える力を養うことが望まれる。